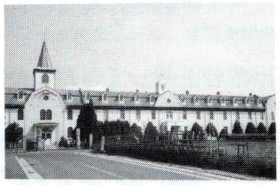
北辰 TOKYO

岐阜県立多治見北高等学校同窓会

東京支部会報　創刊第７号



平成５年10月１日

発行人　鈴木　満

不易なるもの

多治見北高等学校校長

斉藤　誠

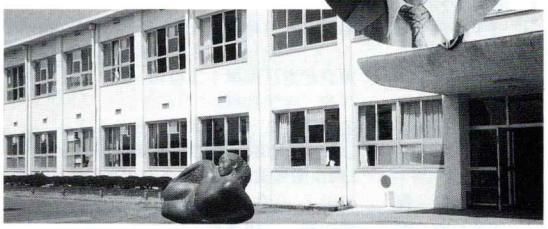
このたび、北高東京同窓会の「北辰」第７号を刊行されること誠にご同慶のいたりです。

多治見北高同窓会東京支部も３０００名もの同窓生の皆さんを擁する会となり、母校を共有する心情に結ばれて、広い視野と知性に基づく活動を年々充実してこられていることを見ますとき、誠に喜ばしく、また、心強く思うものです。

本校も創立以来すでに３５年になりました。その間、時代の流れを反映して、教育課程や特別活動（ＬＨＲ、部活動、生徒会活動等）などの教育内容もある程度変化し、また、女子生徒の割合は４割を越えるようになりました。特に、平成６年度からは、指導要領の改定により、家庭科が男女共修となり、将来の日本の家庭生活にインパクトを与えかねないことを考えると、来年度は北高にとっても、一つの節目の年度となることと思います。

生徒のようすも時代の変化からまぬがれることはできず、いわゆる現代風なところがあります。とは言え、醇朴で知性的、明るく活気のある気質は伝統的なもので、皆さんの高校時代と基本的には変っておりません。川水の流れは、流域の山や平地などの環境次第で、そのようすを変化させながら、しかし、継続して流れていくのに似ていると言えるでしょう。創立以来３５年と言えば、まだ短いとも言えますがかなりの長さです。その間、生徒諸君の心にこの様な良き気質が伝統的にある北高をうれしくまた頼もしく思っています。

多治見北高の校訓である「自主・自律・自学」とこの気質は相互に影響し合いながら、学問に部活動に、生徒達が高校時代を充実させるために努



力する力の源泉になっていると言えるだろうと思います。世界的に新たな時代の幕開けを迎えて、不易とも言えるこのような多治見北高の伝統は、視野の広い人間味豊かな人材を育み、広く社会の各方面に貢献していくことになると信じています。

東京同窓会の皆さんが、明るく闊達な会の中で連帯を深め、また、心のリフレッシュを図られて、益々、各分野でご活躍されることを心から願いまして筆を擱きます。

支部の活性化にご協力を 懇親会に出席してください

東京支部 会長　鈴木　満

北高同窓会東京支部が平成２年に誕生してから４年目の秋を迎えました。私たちは、これまで、

会員の皆様のご支援ご協力を得て、東京支部の活性化に努力してまいりました。しかし、総会出席者数は、第１回が約１５０名、第２回が約１２０名、第３回が約８０名と年々減少の一途を辿っています。

なぜこのように出席者が減ってきたのでしょうか。

初回の出席者が予想外に多かった（当初の予想は１００名程度）のは、最初でもあり「熱気」と「期待」が大きかったからだと思います。そして、回を追うごとに出席者が減ってきたのは、この「熱気」と「期待」が冷めつつある証左だと思います。このままいけば東京支部は消滅してしまうかもしれません。いま、東京支部は、最も苦しい時期―岐路―に差し掛かっているといっても過言ではありません。もし、次回の総会への出席者が５０名を割るようであれば支部のあり方を考える必要がでてくるでしょう。支部を存続させるかどうかは、会員の皆様方のお気持ちに懸っています。

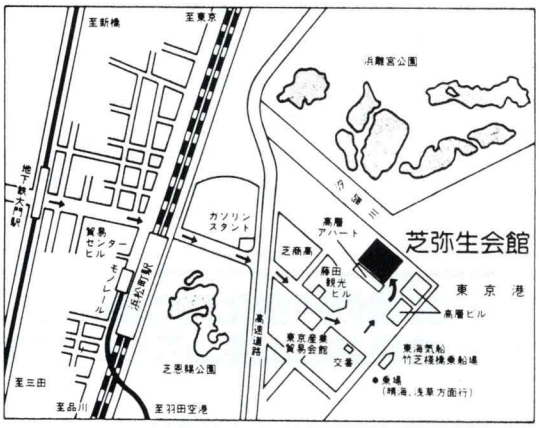
今年の東京支部懇親会は、１１月２０日(土)午後３時から東京・浜松町の「弥生会館」で開催することとしました。従来恒例にしていた１１月２３日ではなく、初めて土曜日に開催することにしましたが、これは、翌日が休みの日の方が会員の皆さんが出席しやすいのではないかと考えたからです。また、会場もＪＲ浜松町駅から徒歩で数分のところにある「弥生会館」に変えました。この「弥生会館」は東京湾に面し、とても夜景が美しいところです。

翌日が日曜日ですので、多治見の仲間なども誘い合って、できるだけ多くの会員のご出席を心からお待ちいたしております。

第4回東京支部同窓会のご案内

記録的な冷夏、急激な円高に見舞われ厳しい環境の中、職場で家庭で頑張っている東京支部の皆さん！“楽しい同窓会”のお知らせです。懐かしい顔と触れ合い、大いに飲み語らい楽しい一時を過ごして下さい。特別企画も準備致しております。近隣の同窓生に声を掛け皆で奮ってご参加していただけます様、お待ちしています。

（１）日　時　　平成５年11月20日(土) 第一部 15:00～16:30
　　第二部 17:00～19:00
（２）場　所　　東京都港区海岸１丁目10－27
　　「芝　弥生会館」
　　TEL　０３（３４３４）６８４１
　　ＪＲ浜松町駅（北口）下車徒歩７分
　　（東京産業貿易会館前方左１００ｍ）
（３）会　費　　一般７，０００円　　学生４，０００円
（４）内　容　　第一部　講演会
　　テーマ　「伝統と創造」
　　講演者　加納のぶやす氏（８回生）
　　帝京大学　医学部助教授



● ＪＲ、モノレール……浜松町駅（北口）下車　徒歩約７分
● 地下鉄……都営浅草線大門駅下車　徒歩約10分
※地下鉄銀座線ご利用の方はＪＲ新橋駅でお乗りかえください。

第二部　“懇親会”
弥生会館11Ｆ会場から眼下に拡がる壮大なパノラマ、100万ドルの夜景＋美味しい仏ワインと地中海料理にアトラクション
同郷集合（出身中学）、ビンゴゲーム等

当日、仕事等で一部にご参加出来ない方は二部だけでも是非ご参加下さい。お待ちしています。

第一部・講演会について

今回は「伝統と創造」を主題とし、加納宣康氏（８回生）を中心に、高校時代をふりかえりつつ、現在の仕事を御紹介していただきます。

なお、今回の企画にあたり、林望氏（エッセイスト、東京芸大助教授）の御出席を考えておりましたが、開催日の変更のため、見送る事にいたしました。が、会員の皆様の熱い御声援もあり、近く是非実現したいと思います。

（企画委員会）

加納宣康

８回生
岐阜大学医学部卒
土岐郡出身

この度は母校多治見北高東京支部懇親会でのフォーラムの演者に御指名いただき光栄に存じます。多北高OBは他の多くの伝統ある一流校のＯＢと比べると規模、社会での重要地位の占有率ともにまだまだの感を否めません。しかし我が母校は開校以来優秀な人材に恵まれ、多くの卒業生が、学校生活を終えてからもその高いpotentialityを開花させ、それぞれの世界で大きく羽ばたいています。第一期生がやっと51歳という若い多北高の卒業生が、恩師の恩を忘れることなく、このような支部会を通じて縦の関係を開拓し、横の関係をさらに強くしていくことは、今後のお互いの進歩を計るうえで、まことに意義深いもの

であります。懇親会で一人でも多くの同窓生にお会いできるのを楽しみにしております。

今年のフォーラムでは、最近、日本の医療にも革命的な変化をもたらした腹腔鏡下外科手術についてお話させていただきます。私はこれまでにこの分野に関して多くの学会で発表し、論文および著書も多数ありますが、一般向けのものとしては、「毎日ライフ」1993年の4月号ならびに7月号の私の担当した部を御参照いただければ幸いです。ただし私の専門は腹腔鏡下外科手術だけではなくて、癌を中心に消化器外科全般に及ぶものであることを付け加えさせていただきます。

《●帝京大学医学部外科学助教授●インド、M.G.M.（マハトマ・ガンジー・メモリアル）医科大学名誉客員教授》

今年の懇親会は11月20日（土）です!!

多治見北高修学旅行

多治見北高教師
大嶽和好

本年度の修学旅行は5月18・19・20・21日の3泊4日、瀬戸内海の大久野島国民休暇村、広島、倉敷そして四国の高知というコースで実施しました。

北高の修学旅行は昭和35年11月6日から10日まで、四国・山陽のコースをもって始まりました。36年は長崎・熊本・別府、37年宮島・秋吉台・四国、38年室戸岬・山口・広島、39年岡山・四国・秋芳洞・広島とこの中国・四国のコースが44年まで続きました。45年からは広島・萩・秋吉台を中心にしたコースが始まり、萩での自由研修のスタイルが定着をします。これが57年まで続きます。58年宮島・京都・広島。そして59年から大久野島が加わります。瀬戸内海の小島でかつては毒ガス製造で知られた歴史を持ちますが、現在ではその自然を生かした国民休暇村として新しい姿を見せています。宮島が倉敷にかわり、大久野島・広島・倉敷のコースが続いて平成4年、大久野島施設の改修工事により長崎・阿蘇が30年ぶりに北高の修学旅行のコースとなりました。今年は改修なった大久野島にもどり、24年ぶりに四国に渡り高知がコースに入りました。

コースや研修の形態、実施の時期など様々な変遷を経てきた多治見北高校修学旅行ですが、学校行事の中での位置付け、その意義、内容、交通手段など毎年毎年の新たな検討課題です。

今年も生徒に最も人気があったのは大久野島でした。小島の自然の中でゆったりした気分で過ごせ、友人ともまた違った雰囲気で接し、スポーツ・釣りなどを楽しむ、日常を離れたより自由な空気が生徒には好評のようです。次に桂浜、広島平和公園があがっています。旅行を通して北高生の今がさまざまなかたちで見えてきます。

生徒の感想文（部分）を紹介します。

●修学旅行から一ケ月以上たった今でも、目に焼き付いて離れないのは、やはりあの原爆資料館で見た三位一体の遺品をはじめとするさまざまな展示品です。そこにあったものはみな、戦争の恐ろしさ、愚かさを私たちに訴えているかのようでした。

「戦争を無くすこと」…それは私たちに課せられた、とても難しく、そして大きな義務であると思います。

なぜ戦争が起こるのか－それは民族や宗教やイデオロギーなどのさまざまな原因がありますが－それをどうしたら止めることが、そして二度と起こらないようにすることができるのか、とても難しい問題です。こんなふうに考えていると、出口のない洞窟に入り込んでしまったような気分になります。だけど、この問題からは逃げられないし、逃げてはいけないと私は思います。

高知の桂浜は本当に美しくて良い景色でした。桂浜だけでなく、美しい風景は私の身のまわりにもそして私の知らない、海を越えた向こうの国にもあります。この美しい（と、いっても年々汚れてきているのですが…いや、だからこそ）空や海や大地を、そして生き物を守っていかなければいけないと、強く感じさせられた修学旅行でした。

（……女子）

●五月下旬に修学旅行が実施された。行き先が「広島・高知」と聞いてなんだか平凡な気がしたが、（去年の旅行は九州地区）終わって見れば、有意義なものとなった。

4日間における日程の中、一番楽しかったのが大久野島であった。ここではあまり時間に追われずに、しかもさまざまな研修ができた。（研修というと聞こえがいいがリクリューションの事なのである。）多分自然（海と山）と共に時を過ごせる、がその理由であろう。また、夜は付近に明かりがないので、夜空の星がとても美しかったことも付

け加えておきたい。

この旅行の目的の一つに、「平和を希求する心を養う」とある。大久野島の、昔の戦時を思わせる毒ガス工場跡・資料館、広島の原爆ドームなどを見た。改めて戦争の恐ろしさを知った。そして平和であることの素晴らしさを強く実感させられたのであった。　(……男子)

▲第35回北辰祭プログラムより

西寺鉄舟先生遺作展のご案内

故西寺鉄舟先生は、多治見北高創立の昭和33年から10年間、美術をはじめ、生徒指導の中で、人間としての英知と勇気を育む自主性の尊重を一貫して諭してこられました。

現在の母校の輝かしい伝統には先生の精神とその情熱が生きていると思います。

また先生は、日本のフォービズムを確立した故斉藤与里氏に師事され、深い内省の中から美の世界を創り出されました。

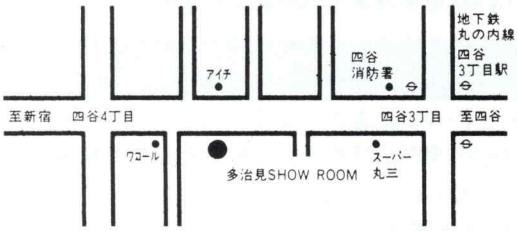
昨年、先生の故郷より当地へ墓碑が移される事になり、これを機会に先生の画業をお偲びしたいと思い立ちました。

旧制名治見中、高校、新制北高、女子高等を含め、先生の意志を受け継ぐ卒業生の作品も一堂に会し、先生の御霊をお慰めできたらと思います。

つきましては卒業生の皆様、是非お誘い合わせのうえ御高覧の程、よろしくお願い致します。

▶場所　多治見市文化会館（一階ＡＢ室）
　　多治見市十九田町２－８
▶日時　平成５年10月15日～17日
　　９時～17時（最終日15時まで）
　　（オープンセレモニー　10月16日18時より　同館大会議室にて）
▶主催　西寺鉄舟遺作展実行委員会
▶後援　多治見市教育委員会

陶器工房"たじみ"東京・四谷にオープン



※交通案内　地下鉄丸の内線四谷3丁目駅下車、徒歩3分

今年５月28日〝陶器工房たじみ〟が多治見市により、新宿区四谷に、東京のアンテナショップとして開設されました。

交通便の良い所にあり、北高卒業生の皆さんに、コミュニケーション、情報の交換の場としてご利用いただきたく紹介いたします。

新宿方面へお出掛けの折には立寄って見て下さい。所在地、連絡先は下記の通りです。

▶〒160 東京都新宿区四谷４－１
▶TEL ０３（３２２６）８８５３
▶交通　地下鉄丸の内線　四谷三丁目　徒歩３分

お知らせとお願い

《その①》東京支部会報『北辰ＴＯＫＹＯ』では皆さんの投稿をお待ちしてます。近況、お知らせなど何でもＯＫです。宛先は右記事務局まで。

《その②》会員の皆さんの住所、勤務先、電話番号など、名簿に記載されている内容が間違っていたり変更になった場合、事務局にハガキまたは電話でお知らせ下さい。

▶　事務局　東京都目黒区中根１－３－１（住友銀行都立大学前ビル６Ｆ（株）ゼロップ内（代表／三回生　国光正憲）℡（３７２５）７０６１（担当・高見）